

S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

見てみよう！歴史地震記録と旬のあいち < 10 月 >

◆八幡社の鳥居（春日井市東野町）

所在地：春日井市東野町

交通：JR 中央線「神領」駅 北西約 2.5km

1891（明治 24）年 10 月に発生した濃尾地震では、美濃地方から尾張地方にかけて広い範囲で被害が発生し、愛知県内では北西部の一宮から西部の海部地域にかけて、被害



が大きかったことがよく知られています。一方、愛知県の北東部、小牧市や春日井市周辺（当時の東春日井郡）では、死者も比較的少なくあまり被害が取り上げられていませんが、市史等には、建物の倒壊や、液状化、堤防の決壊などが発生し、その後の生活に困窮したこと、国庫の補助を受けて堤防の修復等を行ったことなどが記載されています。

春日井市史には次のような記述があります。

「当地の被害は、死者 4、負傷者 18 で比較的人命の被害は少なかったが、それでも民家は全潰 213、半潰 553、破損 1796、合計 2562 に達した。明治 40 年の戸数が 5516 であるから、およそ半数近くが何らかの損害を受けたことになる。」
 「そのほか、公共の建物や蚕糸工場、家畜、農地、道路、橋などにも少なからぬ被害があった。」

また、「家はほとんどつぶれてしまうし、半壊の家、満足に建っている家はなかった。」
 「竹やぶで皆生活した。」
 という当時の人の話も残されています。

ところで、明治の初期から中期にかけては北海道で原野の開拓が進められていた頃で、政府は団体移住を奨励しており、30 戸以上で移住すれば、1 戸あたり 15,000 坪の土地の貸与が受けられ、それを 5 年以内に開墾すれば、以後自作農地とすることが約束されていました。

被災した東春日井郡の住民たちは、明治 26 年に調査員を送って北海道移住の是非を検討します。二度ほど調査員を送り現地の状況を視察した結果、明治 27 年 3 月について移住を決め、16 条からなる愛知県団結移住者規約を定めます。そして明治 27 年春、熱田港を出発し、小樽に上陸し札幌を経て、4 月 15 日（新暦の 5 月 29 日）に、生振原野に入りました。

生振村は明治 35 年に石狩町になり、現在は石狩市になっていますが、当時は生振原野と呼ばれたように、人跡未踏の地で、身の丈を埋める熊笹が生い茂る地でありました。

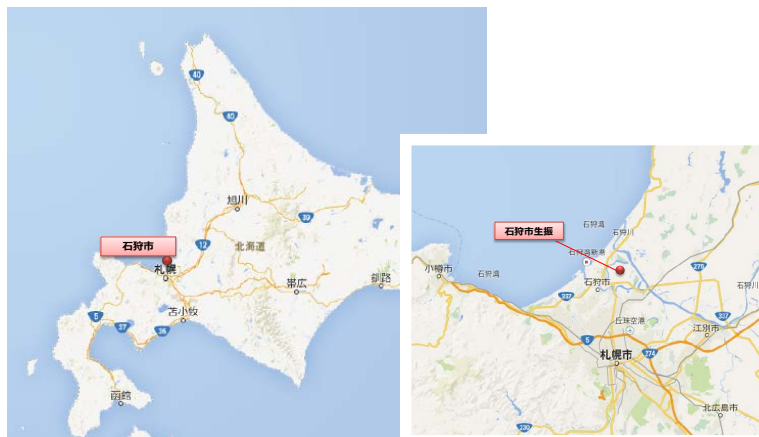
その後の生活については詳しくは「生振村愛知県団体開拓百年史（生振村愛知県団体開拓百年史編集委員会、1993 年）」に譲りますが、その厳しさは想像を絶するものであったことでしょう。

春日井市東野町にある八幡社の鳥居には、北海道団体移住関係者 9 名の名前が「北海道移住者」として刻まれています。建立は大正 8 年になっており、移住後 30 年ほどが経過してから、生活が軌道に乗ったのを機に、記念に鳥居を寄進したのではないかと考えられます。



「北海道移住者」名が刻まれた鳥居の柱

「期限内に割当地を開墾すると、五町歩の自作農家が約束されるとはいうものの、何代も住み慣れた故郷を離れ、馴染み深い親戚故郷と別れて、見も知らぬ北海道の未開地に、一家安住の道を求めることを決意したのは、実に堪え難い苦悩をともなった事と存じます。」（生振村愛知県団体開拓百年史" 発刊にあたって"）
 このような一大決心で、極寒の未開の地へ集団で移転をするほどですので、あらためて濃尾地震の被害の大きさが実感されます。



◆地震にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、地震が実際にこの地域で起こること実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

◆ 八幡社の周辺には…

● 鉄池（濃尾地震に係る碑）

所在地：春日井市大泉寺町

交通：JR中央線「神領」駅北約2.5km

鉄池には改修記念碑や水神碑など、多数の碑が建立されています。この碑には、明治24年（1891）濃尾地震によって、大泉寺新田の池が崩れたこと、地方税と国庫金の補助を受けて修復したことなどが記されています。



● 入鹿池

所在地：犬山市池野地区

交通：名鉄犬山線「羽黒」駅南東約5km

入鹿池では、明治24年（1891）濃尾地震の際に、堤防に幅6～9cm程度、深さ5.5m程度に達する地割れが出来たとされています。この時には、幸いにも水位が低かったために、破堤には至りませんでした。明治元年（1868）には、連日降り続いた大雨で決壊し、浸水被害が発生しています。



◆ 詳細な地図は『滅斎さんの歴史地震記録伝承 Web サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をご覧ください。

★ ハニワまつり

今から約1500年前、春日井市東山町の下原古窯跡群（埴輪を焼いた窯のあと）で大きな埴輪がたくさん作られていました。そこで作られた埴輪は、国指定の史跡、味美二子山古墳などに運ばれて、古墳のまわりに並べられました。二つの遺跡の間には、生地川・八田川が流れ、埴輪はこの河川の水運を利用して運ばれたと考えられています。

現在、川沿いには「ふれあい緑道」が整備されており、この緑道に市民の方が制作した「ハニワ」を並べ古代のロマンを再現する試みが「ハニワまつり」です。毎年10月下旬に開催され、ハニワを焼く野焼きの炎が人々を魅了します。野焼きされたハニワたちは、翌日からふれあい緑道やハニワの館に並べられます。9月には、市民のみなさんによるハニワ制作大会も行われています。



ハニワまつりが開催される二子山公園は味美二子山古墳と隣接しており、公園内の「ハニワの館」には古墳からの出土品が展示されています。



●ブレイクタイム●

♪ 春日井市道風記念館

春日井市には、小野道風の誕生伝説があります。道風は平安時代に活躍した書家で、藤原佐理、藤原行成とともに『三跡』と称され、『書道の神』として祀られています。

道風記念館は、道風の業績にちなみ、全国的にも数少ない書専門の美術館として、また書道史の研究施設として、平安・鎌倉時代の古筆や、古代中国の書の拓本、近現代の書作品など、様々な書を紹介する展覧会を数多く開催しており、書道文化の一層の向上発展に貢献することを目的とした事業を展開しています。



なお、道風は、「柳に小野道風（あるいは柳に蛙）」の札として花札の絵柄にもなっています。



『道風記念館』

所在地：愛知県春日井市松河戸町946番地2

交通：JR中央線「勝川」駅徒歩30分

◆ この地域の地震・津波に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆ 県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『滅斎さんの歴史地震記録伝承 Web サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をぜひご覧ください。

（発行：滅斎の会（仮称） 山本 真一郎 平成26年10月）